


 全国
連載
金日

わがいのち、月明に燃ゆ

美和勇夫

俺の言葉に泣いた奴が絶つた。

これはいわば辞世の句。俺を恨んでいた奴が一人。それでも本当に俺を忘れないでいてくれる奴が一人。

みんな併せてたつた明に燃ゆ」といった状況

(祖国)はいかにして耐

た一人」

とは、なんとも悲し

えうるのか?」。

「それでは何の為に俺

は戦かい、散つていかな

ければならないのか……

★ ★ ★ ★ ★

その時から幾十年

日本はまた新しい年をひ

り、再びかみしめてみた

たは確かな判断力を養う

いものだ。(筆者は多治

見市上野町在住)

の宅島徳光は、終戦もおをいただいて空のかなたへ「帰らぬ人」となつて迫った七月二八日、四

飛びたつていつたのか。「お父さん、お母さんとつ迎えようとしているお世話になりました」とそしてこの祖国は、あれ

けなげに言うが、父や母だけ無暴な戦争をやつて

触、交戦したまま消息をもない。

アメリカの機動部隊と接

今ではおしはかるすべ

り、再びかみしめてみた

たは確かな判断力を養う

いものだ。(筆者は多治

見市上野町在住)

いものだ。(筆者は多治

見市上野町在住)

いものだ。(筆者は多治

見市上野町在住)

★★★★★
は少しも我が息子に死ん
でくれとは頼んではいな
で父母や幼い子供らに代
わって自ら、かつてでも
という気持で飛びたつた
ものが?

いや戦況(客観状勢)
はもはやそれにしてもあ
まりにも日本に勝算はな
かった。
「己れひとりが、海の
敵の物量攻勢の前に銃後
(祖国)はいかにして耐
た一人」

いのち、月明に燃ゆ」と
いうのが、戦前、押し流されてしまう。か
らば悪に近いふてぶてし
散らされた若者たちが、
なぜ言葉としては、「先
立つ不幸を許して下さい」幸運にして、あの時祖
國の為に南の海で散る機
会を逸した若者が長じて
「俺が死んだら、くち
なしの花を飾つてくれる
奴が一人」

廣大な銀河宇宙を語る「
天文學」からすれば、人
のせの百年の命は、一刹
那にすぎぬ。そうであれ
ば、「わがいのち、月明に
燃ゆ」と散つた若者の言
葉を、行動のひとつ原
因の祖国危機記事を満
載させるマスコミ、加え
て低迷を続ける産業、構
造とともに、新年にあ
つて再びかみしめてみた

いものだ。(筆者は多治
見市上野町在住)